

番号	科目名	単位数	学年	学科(系列・類型)	必修・選択
339	発展言語文化	2	3	総合学科	系列選択I

履修条件、選択上の留意事項等
言語文化を履修していること。

科目の目標
言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。
② 思考・判断・表現	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
③ 主体的に学習に取り組む態度	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。
評価の方法	学習内容に関心を持ち授業での自身の考えをまとめ発表する意欲、課題を見つけ解決に向けて取り組む態度等を多面的に評価する。課題の達成状況により、知識・技術の習得状況や思考・判断・表現力について評価する。

学習計画						
月	単元(項目)	題材(使用教科書項目)	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	文体の魅力	中島敦「名人伝」	我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増やしなが、文体を意識して、内容を理解することができる。	○		
			文章の展開、表現の仕方、表現の特色について評価し、自分の考えを持つことができている。		○	
5	古典文法を学ぶ	用言の活用	古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりを理解している。	○		
			古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景を理解している。	○		
6	昔と変わらない人の心	伊勢物語「芥川」	作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めている。		○	
			言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもっている。			○
7	古典文法を学ぶ	助動詞の意味	古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりを理解している。	○		
			特徴的な韻文の表現技法を踏まえて、内容を正確に把握している。		○	
7	詩歌を味わう	「六月」「サーカス」 短歌 俳句	自分の体験や思いが効果的に伝わるように、表現の仕方を工夫した作品を書くことができる。		○	
			言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養っている。			○

月	単元 (項目)	題材 (使用教科書項目)	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
9	先人を思う旅	おくのほそ道「平泉」	古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景を理解している。	○		
			作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について、自分の考えをもつことができている。		○	
			言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養っている。			○
	漢文訓読を学ぶ	訓読のきまり	漢文の世界に親しむために、漢文を読むために必要な文語のきまりを理解している。	○		
10	論語のことは	論語	漢文の世界に親しむために、漢文や文章の歴史的・文化的背景を理解している。	○		
			作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について、自分の考えをもつことができている。		○	
11	漢詩を味わう	「春暁」「江雪」 「涼州詞」「送元二使安西」	漢詩の世界に親しむために、漢詩を読むために必要な事柄を理解している。	○		
			作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について、自分の考えをもつことができている。		○	
			言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって漢詩に親しみ、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養っている。			○
12	「ことば」の力	太宰治「葉桜と魔笛」	作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めている。		○	
			我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養っている。			○
1	戦いを描く	【読み比べ教材】 ○近現代以降の文章 田宮虎彦「沖繩の手記から」 ○古文 平家物語「木曾の最期」	我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深めている。	○		
			文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。		○	
			同じ問題領域について書かれた近現代の作品と古典作品を比較・対照することで、自分の考え方を深め、それを適切に自分の言葉で表現している。			○
			言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養っている。			○

番号	科目名	単位数	学年	学科(系列・類型)	必修・選択
340 347	数学 I 演習	2	3	総合学科 工業科	系列選択 I 自由選択

履修条件、選択上の留意事項等

科目の目標
<p>数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1)数学 I の内容について基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、基礎を確実に定着し、数学的に表現・処理する技能を身につけるようにする。</p> <p>(2)問題演習をすることによって、数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度を育てる。</p> <p>(3)数学的活動を通して、他者の思考を理解し、自身の思考を深め、他者に的確に伝える能力を育成する。</p>

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	各単元における基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な知識を身につける。
② 思考・判断・表現	各単元において、事象を数学的に考察し、処理する仕方や推論の方法を身につけ、的確に問題を解決すると同時に事象を数学的にとらえて論理的に表現する力をつける。
③ 主体的に学習に取り組む態度	各単元の考え方に興味を持ち、それらを事象の考察に活用しようとすることができる。
評価の方法	定期考査及び授業における取り組み、課題への取り組み等を評価する。

学習計画および評価の方法						
月	単元 (項目)	題材 (使用教科書項目)	単元や題材などの内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	数と式	数の計算 整式 乗法公式	整式の整理や乗法、因数分解の基礎的な知識を身に付けている。			○
5		因数分解 無理数	実数の性質について理解し、基礎的な知識を身に付けている。		○	
6		1次方程式 連立方程式	方程式の基礎的な知識を身に付け、応用問題にも対応できる。		○	
7		2次方程式	基礎的な2次方程式の問題が解ける。	○		
8						
9	数と式	2次方程式 1次不等式・2次不等式	2次方程式の問題が解け、不等式の問題が解ける。	○		
10	集合と命題 2次関数	命題と論理 1次関数・2次関数	命題と論理、関数の基礎的な性質を理解し、問題を解ける。		○	
11	図形と計量	三角比 三角比の相互関係 正弦定理・余弦定理	三角比の基礎的な知識を身に付け、三角形の解法に応用できる。			○
12	場合の数と確率	集合 場合の数	集合、場合の数の基礎的な知識を身に付けている。	○		
1		順列 組合せ 確率	順列組合せの基礎的な知識を身に付けている。 確率の基本的な問題が解ける。	○		
2						

番号	科目名	単位数	学年	学科(系列・類型)	必修・選択
341	民謡	2	3	総合学科	系列選択Ⅰ

履修条件、選択上の留意事項等

選択クラス授業

科目の目標

・各地で伝承されている伝統的民謡と和楽器の奏法について学ぶ。

評価の観点とその趣旨

① 知識・技能	・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性などについて理解を深めている。 ・創意工夫などを生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作などで表現している。
② 思考・判断・表現	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知見し、それらの働きを感受しながら、知覚したものと感受したことの関わりについて考え、どのように表すかについて表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりしている。
③ 主体的に学習に取り組む態度	音や音楽、音楽文化と豊かに関わり主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

評価の方法

実技やレポートを中心に、授業態度や課題で総合的に判断して評価する。

学習計画

月	単元 (項目)	題材 (使用教科書項目)	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4 5	歌唱(九州沖縄)	おはら節、炭坑節、安里屋ユンタ	歌唱に適した姿勢、呼吸法を習得し、体全体を使って歌唱することができる。		○	
	器楽(篠笛)	たこたこあがれ、とうりゃんせ	篠笛の基礎的演奏技法を習得し、呂音で演奏できる。	○		
6 7	歌唱(四国中国)	安来節、金毘羅船船、中国地方の子守歌	歌唱に適した姿勢、呼吸法を習得し、体全体を使って歌唱することができる。		○	
	器楽(篠笛)	さくらさくら、あんたがたどこさ	篠笛の基礎的演奏技法を習得し、甲音で演奏できる。	○		
9 10	歌唱(近畿中部)	串本節、でかんしょ節、ずいずいっころばし	歌唱に適した姿勢、呼吸法を習得し、体全体を使って歌唱することができる。		○	
	器楽(篠笛)	ソーラン節、平城山	篠笛の基礎的演奏技法を習得し、甲音で演奏できる。	○		
11 12	歌唱(関東北信越)	チャッキリ節、木曾節、佐渡おけさ	歌唱に適した姿勢、呼吸法を習得し、体全体を使って歌唱することができる。		○	
	器楽(篠笛)	五木の子守歌、荒城の月	篠笛の基礎的演奏技法を習得し、甲音で演奏できる。	○		
1 2	鑑賞(東北北海道)	花笠音頭、ソーラン節、アイヤ節	歌唱に適した姿勢、呼吸法を習得し、体全体を使って歌唱することができる。			○
	器楽(篠笛)	江戸子守歌、浜千鳥	篠笛の基礎的演奏技法を習得し、甲音で演奏できる。	○		○

番号	科目名	単位数	学年	学科(系列・類型)	必修・選択
342	生活の書	2	3	総合学科 (全系列)	系列選択G

履修条件、選択上の留意事項等
選択クラス授業

科目の目標
書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。 (2) 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようにする。 (3) 主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	・書の表現の方法や形式、多様性などについて理解している。 ・書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付け、表している。
② 思考・判断・表現	・書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりしている。
③ 主体的に学習に取り組む態度	・主体的に書の表現及び鑑賞の幅広い活動に取り組もうとしている。
評価の方法	ワークシートの記入内容、作品鑑賞カードの記入内容、発表の内容、小テスト、作品、授業に取り組む姿勢などをもとに総合的に評価する。

学習計画						
月	単元 (項目)	題材 (使用教科書項目)	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	硬筆の基礎(楷書)	硬筆レッスン帖(楷書)	楷書の特徴を理解している。	○		
			楷書の基礎基本を意識し、意欲的に取り組んでいる。			○
5	硬筆の応用(行書)	硬筆レッスン帖(行書)	行書の特徴、楷書との違いを理解している。	○		
			行書の基礎基本を意識し、意欲的に取り組んでいる。			○
		硬筆検定3級対策	行書の基本的な用筆・運筆法を表現することができる。		○	
			書写の基礎基本を意識し、意欲的に取り組んでいる。			○
6	はがきの書き方	はがきの書き方について理解している。	○			
		書写の基礎基本を身につけ、体裁よく書くことができる。		○		
		書写の基礎基本を意識し、意欲的に取り組んでいる。			○	
7	履歴書を書く	履歴書の用途、書き方について理解している。	○			
		書写の基礎基本を意識し、意欲的に取り組んでいる。			○	
	うちわ制作	漢字と仮名の用筆、運筆、字形のとり方などを表現することができる。		◎		

月	単元 (項目)	題材 (使用教科書項目)	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
9	毛筆(細筆)の基本	自分の名前を楷書行書で書く	書写の基礎基本を身につけ、体裁よく氏名を書くことができる。	○		
		熨斗紙・祝儀袋、不祝儀袋を書く	熨斗紙・祝儀袋、不祝儀袋の用途について理解している。		◎	
10	細字の学習		漢字と仮名の調和について理解している。	○		
			漢字と仮名の用筆、運筆、字形のとり方などを表現することができる。		◎	
11	漢字仮名交じりの書	詩文を書く	書の表現・鑑賞活動に意欲的に取り組んでいる。			○
			書写の基礎基本を理解し整った文字を表現することができる。		◎	
			漢字と仮名の用筆、運筆、字形のとり方などを表現することができる。		○	
			全体構成、字形を意識し表現することができる。		◎	
12	漢字仮名交じりの書	詩文を作り、表現する	主体的に書の表現・鑑賞活動に取り組んでいる。			○
			漢字と仮名の調和について理解している。	○		
			はがきの書き方を理解している。		○	
			書写の基礎基本を意識し、意欲的に取り組んでいる。	○		
		年賀状を書く	漢字と仮名の調和させ、表現することができる。		○	
			主体的に書の表現及び鑑賞活動に取り組んでいる。			○
1	漢字仮名交じりの書	新年の抱負を書く	行書の特徴を理解している。	○		
			漢字と仮名の調和した字形、文字の大小、線質、全体構成について構想し表現している。		◎	

番号	科目名	単位数	学年	学科(系列・類型)	必修・選択
343	論理表現 I	2	3	総合学科	系列選択I

履修条件、選択上の留意事項等
選択、使用教材（読解力と表現直を高める SDG s 英語長文C o r e）は変更される場合がある。

科目の目標
<p>基本的な語句や文を用いて、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 文脈にあった質問や答えを続けることで、情報や考え、気持ちなどを、やり取りを通して伝え合うことができる。 2. 論理の構成や展開を工夫することで、情報や考え、気持ちなどを、話して伝えることができる。 3. 論理の構成や展開を工夫することで、情報や考え、気持ちなどを、書いて伝えることができる。

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	英語の知識を身につけ、SDG s を通し、国際的な話題や英語の理解を深める。
② 思考・判断・表現	英語で話したり、書いたりして、自分の考えを相手に伝える。
③ 主体的に学習に取り組む態度	日常生活との関連を図りながら国際問題について関心を持ち、学習活動に意欲的に取り組んでいる。グループワークや、パフォーマンステストなどを通じて積極的にコミュニケーションを図ろうとする。
評価の方法	定期テスト、小テスト、パフォーマンステスト、提出物（英作文等）、授業への取り組み、自己評価、

学習計画						
月	単元 (項目)	題材 (使用教科書項目)	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	Lesson1	貧困をなくそう	世界の貧困問題についての文章を読み、その内容を理解することができる。 児童労働についての自分の考えを書いたり、話すことができる。 日常生活との関連を図りながら国際問題について関心を持ち、学習活動に意欲的に取り組んでいる。	○	○	○
5	Lesson2	飢餓をゼロに	飢餓問題についての文章を読み、その内容を理解することができる。 自分たちの日常生活と飢餓問題がどのように関わっているかを理解し、自分ができることについて書いたり、話すことができる。 日常生活との関連を図りながら国際問題について関心を持ち、学習活動に意欲的に取り組んでいる。	○	○	○
6	Lesson3	すべての人に健康と福祉を	発展途上国で起きている健康問題についての文章を読み、その内容を理解することができる。 様々な状況を設定し、それぞれの状況で健康を維持・向上させるためには何が必要かについて、学んだことを活用し発表する。 日常生活との関連を図りながら国際問題について関心を持ち、学習活動に意欲的に取り組んでいる。	○	○	○
7	Lesson4	質の高い教育をみんなに	教育を受けられない人々についての文章を読み、その内容を理解することができる。 教育を受けられないことによって起こる事柄についてグループで出し合い、負の連鎖を断ち切るためにできることについて話し合う。 日常生活との関連を図りながら国際問題について関心を持ち、学習活動に意欲的に取り組んでいる。	○	○	○
月	単元 (項目)	題材 (使用教科書項目)	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
8	Lesson5	ジェンダー平等を実現しよう	日本のジェンダーギャップについての文章を読み、その内容を理解することができる。	○	○	○

			<p>学んだことを活用して、実際に身近にあるジェンダーの問題について調べ、発表する。</p> <p>日常生活との関連を図りながら国際問題について関心を持ち、学習活動に意欲的に取り組んでいる。</p>	○	○	○
9	Lesson6	安全な水とトイレを世界中に	<p>西アフリカでの例を通して、水の重要性と水不足がもたらす問題についての文章を読み、その内容を理解することができる。</p> <p>日常生活で水を節約する具体的な方法についてグループで出し合う。</p> <p>日常生活との関連を図りながら国際問題について関心を持ち、学習活動に意欲的に取り組んでいる。</p>	○	○	○
10	Lesson7	エネルギーをみんなにそしてクリーンに	<p>日本のエネルギー事情と日本政府が取り組んでいるエネルギー政策についての文章を読み、その内容を理解することができる。</p> <p>日常生活で電気を節約する具体的な方法についてグループで出し合う。</p> <p>日常生活との関連を図りながら国際問題について関心を持ち、学習活動に意欲的に取り組んでいる。</p>	○	○	○
11	Lesson8	働きがいも 経済成長も	<p>世界じゅうでの雇用の課題についての文章を読み、その内容を理解することができる。</p> <p>学んだことを活用し、将来就きたい職業と、職場に求める事柄について書くことができている。</p> <p>日常生活との関連を図りながら国際問題について関心を持ち、学習活動に意欲的に取り組んでいる。</p>	○	○	○
12	Lesson9	産業と技術革新の基盤をつくろう	<p>電気のない生活がもたらす影響についての文章を読み、その内容を理解することができる。</p> <p>学んだことを活用し、日常的に電気が使えない事態になった場合自分たちの生活がどのように変化するかグループで話し合う。</p> <p>日常生活との関連を図りながら国際問題について関心を持ち、学習活動に意欲的に取り組んでいる。</p>	○	○	○
1	Lesson10	人や国の不平等をなくそう	<p>人種差別についての文章を読み、その内容を理解することができる。</p> <p>学んだことを活用して、実際に身近にある人種差別問題について調べ、発表する。</p> <p>日常生活との関連を図りながら国際問題について関心を持ち、学習活動に意欲的に取り組んでいる。</p>	○	○	○
2	Lesson11	住み続けられるまちづくりを	<p>都市と地方が直面する課題に対処するためのレジリエンス（復興力）についての文章を読み、その内容を理解することができる。</p> <p>学んだことを活用し、自分たちの住む地域でより防災力や減災力を高めるために必要なことについて考え、発表する。</p> <p>日常生活との関連を図りながら国際問題について関心を持ち、学習活動に意欲的に取り組んでいる。</p>	○	○	○

番号	科目名	単位数	学年	学科(系列・類型)	必修・選択
219 344	社会福祉基礎	2	2	総合学科 (健康福祉系列)	系列選択B

履修条件、選択上の留意事項等

2年次系列選択Bで履修した者は、3年次系列Iでは同科目を選択できません。

科目の目標

福祉の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、社会福祉の向上に必要な基礎的な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 社会福祉について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につけるようにする。
- (2) 社会福祉の展開に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。
- (3) 健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、福祉社会の創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

評価の観点とその趣旨

① 知識・技能	社会福祉の実践において必要な知識について体系的・系統的に理解しているとともに、関連する技術を身につけている
② 思考・判断・表現	社会福祉の展開に関する諸課題を発見し、援助者としての倫理観をふまえて、合理的かつ創造的に解決をする力を身に付けている。
③ 主体的に学習に取り組む態度	健全で持続的な社会を目指して自ら学び、福祉社会の創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。

評価の方法

定期テスト、小テスト、課題レポートやその他提出物等への取組状況、授業への取組状況

学習計画

月	単元 (項目)	題材 (使用教科書項目)	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	社会福祉の理念と意義	生活と福祉	私たちの生活と社会福祉の関りについて理解している。		○	
		社会福祉の理念	社会福祉が持つ理念やその在り方について理解している。		○	○
5	社会福祉の歴史と次代の展望	人間の尊厳と新たな福祉社会の創造	人間の尊厳と自立生活支援の考え方について理解している。 新たな社会福祉の創造の在り方について理解している。		○	○
		諸外国における社会福祉	諸外国における社会福祉の思想について理解している。	○		○
6	生活を支える・社会福祉・社会保障制度	日本における社会福祉	日本の社会福祉がどのように発展してきたのか理解している。	○		○
		社会保障制度の意義と役割	私たちの生活を支える社会保障制度の意義と役割について理解している。	○	○	○
7		子ども家庭福祉	児童および家庭を支える社会福祉サービスについて理解している。	○	○	○

月	単元 (項目)	題材 (使用教科書項目)	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
9	生活を支える・社会福祉・社会保障制度	障害者福祉	障害者を支える社会福祉サービスについて理解している。	○	○	○
		高齢者福祉と介護保険制度	高齢者を支える社会福祉サービスについて理解している。	○	○	○
		生活支援のための公的扶助	生活支援を目的とした公的扶助について理解している。	○	○	○
		国民の生活を支える社会保険制度	私たちの生活を支える社会保障制度について理解している。	○	○	○
10	人間関係とコミュニケーション	コミュニケーションの基礎	コミュニケーションの意義と手段について理解している。	○	○	○
		支援における人間関係の形成	支援における人間関係の形成において大切なことを理解している。	○	○	○
		社会福祉における支援活動の概要	社会福祉における支援活動について理解している。	○	○	○
11	地域福祉の発展と多様な社会的支援制度	多様な社会的支援制度	社会福祉に関連する社会的な支援制度の種類、歴史、現状等について考察している。	○	○	○
		地域福祉の発展と地域の将来	これからの地域福祉・まちづくりについて考察している。	○	○	○
12	2					

番号	科目名	単位数	学年	学科(系列・類型)	必修・選択
352 369	プログラミング技術	2	3	総合学科 工業科(電気電子類型)	I選択 類型選択F

履修条件、選択上の留意事項等
総合学科の生徒は、プログラミングに興味がある生徒や、進路選択上必要とする生徒の履修が望ましい。 電気電子類型の生徒は、主に就職や専門学校への進学を希望する生徒が履修する。

科目の目標
<p>I 目標</p> <p>工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、コンピュータのプログラミングに必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) コンピュータのプログラミングについてシステムソフトウェアとプログラミングツールを踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>(2) コンピュータのプログラミングに関する課題を発見し、技術者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。</p> <p>(3) コンピュータのプログラムを開発する力の向上を目指して自ら学び、情報技術の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技術	コンピュータのプログラミングについてシステムソフトウェアとプログラミングツールとを工業生産や社会生活と関連付けて理解するとともに、プログラミングにおける様々な状況に対応できる技術を身に付けている。
② 思考・判断・表現	アルゴリズムとプログラム技法に関する課題を見だし、プログラムが社会に与える影響に責任をもち、科学的な根拠に基づき情報技術の進展に対応し解決する力を身に付けている。
③ 主体的に学習に取り組む態度	コンピュータのプログラムを開発する力の向上を目指し、効果的なプログラミング技法について自ら学び、情報技術の発展への貢献に、主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。
評価の方法	課題への取組姿勢と記述内容、小テストの得点、定期試験の得点、ノートや配布資料のまとめ方などを評価する。

学習計画						
月	単元(項目)	題材(使用教科書項目)	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	アルゴリズムとシステム開発	身近なアルゴリズム	アルゴリズムについて自ら学び、主体的かつ協働的に取り組む。			○
		アルゴリズムの表現方法	アルゴリズムについて表現方法及びプログラムの処理手順を踏まえて理解し、関連する知識と技術を身に付ける。	○		
			情報を効率的に処理する方法に着目して、アルゴリズムについて、その課題を見出し、解決策を科学的な根拠に基づき検証し、改善する。		○	
		システム開発	システム開発について理解し、関連する知識と技術を身に付ける。	○		
システム開発について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組む。				○		
5	プログラム開発環境	基本ソフトウェア	基本ソフトウェアについて自ら学び、主体的かつ協働的に取り組む。			○
		プログラム言語	プログラム言語について理解し、関連する知識と技術を身に付ける。	○		
		コンパイルとリンク	実行プログラムの生成について理解し、関連する知識と技術を身に付ける。	○		
			実行プログラムの生成について、その課題を見出し、解決策を科学的な根拠に基づき検証し、改善する。		○	
	実行プログラムの生成について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組む。			○		

月	単元 (項目)	題材 (使用教科書項目)	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
6	プログラミング技法I	C言語の基本的な知識	C言語の構造化に関する基本文法について理解し、関連する知識と技術を身に付ける。	○		
		デバッグ	C言語のデバッグ作業について、その課題を見出し、解決策を科学的な根拠に基づき検証し、改善する。		○	
		入出力	C言語での入出力処理について理解し、関連する知識と技術を身に付ける。	○		
			C言語での入出力処理について、その課題を見出し、解決策を科学的な根拠に基づき検証し、改善する。		○	
			C言語での入出力処理の活用について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組む。			○
7	プログラムの制御構造	選択	適切な選択条件の設定方法、多分岐選択及び複数条件分岐の場合の選択条件によるプログラムの作成方法について理解し、関連する知識と技術を身に付ける。	○		
			選択処理時の課題を見出し、解決策を科学的な根拠に基づき検証し、改善する。		○	
		8 9	繰り返し	繰り返しの条件の設定方法、繰り返し範囲内部の値や状態の変化について理解し、関連する知識と技術を身に付ける。	○	
繰り返し処理の課題を見出し、解決策を科学的な根拠に基づき検証し、改善する。				○		
プログラムの制御構造について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組む。					○	
10	配列とポインタ	配列と文字列	配列と文字列について理解し、関連する知識と技術を身に付ける。	○		
			配列と文字列の課題を見出し、解決策を科学的な根拠に基づき検証し、改善する。		○	
		11 12	ポインタ	ポインタについて理解し、関連する知識と技術を身に付ける。	○	
ポインタの利便性について、その効果的な活用を論理的に検証し、改善する。				○		
ポインタを使用するプログラミングについて自ら学び、主体的かつ協働的に取り組む。					○	
1	プログラミング技法II	関数	関数について理解し、関連する知識と技術を身に付ける。	○		
			関数を用いたコードについて、その課題を見出し、解決策を論理的な根拠に基づき検証し、改善する。		○	
			関数の利用について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組む。			○
		標準化とテスト技法	標準化とテスト技法について理解し、関連する知識と技術を身に付ける。	○		
			標準化とテスト技法について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組む。			○
2 3	応用的プログラム	構造体とデータ構造	構造体について理解し、関連する知識と技術を身に付ける。	○		
			キュー、スタック、連結リスト、木構造などのデータ構造構造体について理解し、関連する知識と技術を身に付ける。	○		
			データ構造の必要性や効率的な使用方法を、科学的な根拠に基づき検証し、改善する。		○	
			構造体とデータ構造について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組む。			○